

平成27年度

第2回 長岡市図書館協議会

日 時 平成28年2月19日(金) 午後1時30分～午後3時40分
会 場 中央図書館2階 講座室1

会議出席者 委 員：渡邊誠介 委員長、淵本紀子 副委員長、恩田里士 委員、
小林多加志 委員、谷菜摘 委員、内藤純子 委員、
松本和明 委員、吉原満 委員、渡辺雅明 委員
(湯本委員欠席)

事務局：金垣孝二 館長、内山隆 館長補佐、金山容子 庶務係長、
松矢美子 奉仕係長、田中洋史 文書室長
指定管理者；田原範雄 統括責任者、高橋理恵 総括チーフ、
渡辺雅代 業務チーフ

1 開会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 報告事項

① 平成27年度の重点事業について

- ・新図書館情報システムの活用報告
- ・長岡市災害復興文庫の運営報告

② 平成28年度の主な事業計画(案)について

(2) 協議事項

① 平成27年度長岡市立図書館の活動評価について

② 平成28年度の運営方針(案)について

(3) その他

4 閉会

5 会議録要旨

(1) 報告事項 ①平成27年度の重点事業について

○国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスは、もっと使われてしかるべきものと思うので、有効にPRされたほうがよい。

○長岡市災害復興文庫についてもどう使ってもらおうかということが大事であり、

たとえば、小中学校の総合学習、高校や大学の課題学習、あるいは、コミセンなどにおける歴史を学ぶ講座での活用など、今もやっていると思うが、新年度以降も引き続き取り組んでいただきたい。

(1) 報告事項 ②平成 28 年度の主な事業計画 (案) について

○市制施行 110 周年は、大々的にやってしかなるべきだと思っている。ベースは 10 年前に作った『長岡市政 100 年のあゆみ』で、そこに 10 年加えていくというイメージなのか、どういう作りこみをするのか。

⇒中身については検討中である。すでに 100 周年の本が出ているので、その成果を使っていきたい。合併した地域については、その時取り上げていないこともあって、資料調査したいと考えている。

また、長岡まつりが戦後復活して 70 周年になるので、そういった切り口も入れたいと考えている。

○支所には専門職員がいない。各支所地域の資料を発掘するのは、支所なのか、それとも地域の研究会なのか。どういう形で調査し、まとめるのか。

⇒11 地域の 110 年間の資料を調査することは、中央図書館でも支所でも、現状では難しい。ベースとして、長岡市が打ち出している「各地域の宝」を考えている。たとえば、大竹記念館、もみじ園、錦鯉、山口邸といったものの写真や資料を紹介しながら各時代に組み込み、長岡市全体の近現代史として、まとめられないかと思っている。これであれば、中央図書館が中心になりながら、支所でも十分対応していただけるのではないかと考えている。

○期待している。

(2) 協議事項 平成 27 年度長岡市立図書館の活動評価について

○重点事業 2-1-③行政支援の強化の評価が B というのは厳しいという感じがする。図書館としては、足りない部分があるとしても一定の方策は打って準備をしているのに、逆から見れば (行政) 職員の意識の問題、つまり政策等を検討する場合や、何か調べる場合において、図書館を利用しないでネットで適当に調べて作ってしまうというのは、やはり意識というか意欲、率直に言えば不勉強だという感じがする。図書館側の問題ではないが、そういった動機付けも含めて利用促進していくことが必要でないか。

また、ビジネス支援も一つの図書館で行うのは難しい。市内の 3 大学 1 高専の各図書館やセンターが、ノウハウなり実績があるわけだから、そこの連携協力をさらに進めるといいのではないか。

●委員から重点事業 2-1-③の評価は、B ではなく A ではないかという指摘があったがいかがか。

○ここだけが引っ掛かる。こちらの問題ではなく受け手の問題ではないかと読めたので A でよいのではないかと考えた。

●この項目、レファレンス周知が実施できなかったので評価がBということのようだが、レファレンスは用意できていたが周知できたかどうかによる。
⇒市役所のポータルに「こんなこともできますよ」というお知らせを作ることと、課の名前で貸出カードを作って貸出すればいいというアイデアはあったものの、実現に至らなかった。

Bとした理由は、積極的ではなくても役所からの問い合わせは来ており、それを図書館としてマニュアルを作り、見える所に置くとか、その段取りをするようにすればもう少し現状が変わるのではないかという思いがあり、もう一歩踏み出すことができなかつたので、Bと評価した。

●事務局から説明があつたが、Bでよいか。

○了解。

○歴史資料所在確認調査について、旧市町村はどこかの時点で自分のところの歴史資料を整理したものを持っているのか？

⇒一つは、それぞれ市町村史の編さんをおこなったときに目録化したり、場合によっては寄贈を受けて保管しているものがある。

あわせてその本を作るために調査をしたものについては、個人のお宅にそのままあるものもあるので、所在確認調査については、個人のお宅にあるものの状況の確認とあわせて、支所が保管している資料の現状確認を行う。今年度の調査は、聞き取りを中心とした小規模なものだった。

○予約の順番が遅い状況が最近多いような気がする。順番を早くしてほしいというより、予約冊数15冊は少ないような気がする。

⇒ほかでもそういったご意見をいただいている。半年待っていても1件は1件なのでほかの予約を入れられない、という声もいただいているので検討したい。

○「合併10周年記念 郷土長岡を創った人びと展」のオープニングセレモニーでは、保育園児が長岡市歌を手話付きで歌っていたがとても感動した。今後もオープニングの工夫を継続して行ってほしい。個人的にはAA評価でもいいと思っている。

(2) 協議事項 平成28年度の運営方針(案)について

○1番目(米百俵のまち長岡の図書館として郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。)だが、これ自体が1番目に上がったことは良いことだと思うが、「米百俵」という言葉が冒頭についてしまうと、これは何をもってこういう表現を最初にあげたのかということを確認する必要があると思う。たとえば、市の総合戦略や教育委員会の方針などに「米百俵」が出てくるが、冒頭に出てそれは枕詞ではないかと、私は読んでしまう。言葉を出すことはいいこ

となのだが、何をもってあえて「米百俵」を入れたのかということはやはり、明確に説明する必要があるのではないかと思う。別に削ってくれというわけではないが、出す以上は、その持つ意味、本質をしっかりと図書館として定義する必要があると思う。お考えをお聞かせいただきたい。

⇒「米百俵のまち長岡」というのは、長岡市では、いろいろな場面で使われている。市民の多くが、正しい意味や主義を知らないのではないか、それをしっかり押さえたうえで使うべきだ、という意見があることは承知している。

表現を変えた理由のひとつは、平成27年度は「当市をはじめとする・・・」という非常に漠然とした表現であったためである。「米百俵の精神」や「野本互尊翁」など、長岡の歴史や伝統を踏まえた図書館として、それを継承していきたいと考え、修正を提案した。きちんと定義はしておらず、もう少し検討する必要があると考えている。

○昨年1年間、まちキャンで「米百俵の精神とは」をやってみたが、米百俵と出してしまうとやはり旧市域になってしまう。新市域にも米百俵の精神的人物や史跡はあるものの、これが出してしまうと旧市域ということになってしまいがちではないか。合併地域（新市域）では、「違う」という認識があるのは事実で、別に削ってくれとは言わないが、その辺、あるべき姿を内部で検討されてしかるべきではないかと思う。

○私は井伊家の伝統を引き継ぐ与板藩の生まれであり、プライドを持っている。それはそれとして尊重した歴史を背負ってきている人間の一人であるが、新しい28万人の都市になって、象徴的なひとつの教育事象として、あるいはまちづくりの事象としての米百俵は素晴らしいことだと思うので、合併地域の住民としても抵抗感はない。私の感想である。

⇒ご意見を踏まえて、次の協議会のときに、もう少し説明できるようにしたい。

●4番の各種機関というのは具体的にはどういうところを想定しているか？

⇒ビジネス支援関係では、長岡商工会議所や新潟産業創造機構、大手通商店街など、行政に限らず、様々なところを想定している。今年ではできなかったが、将来的には大学についてもいろんな事業で連携していきたいと考えている。

○ご意見ポストのところでもあったが、今、子ども連れで図書館に行くのがちょっと行きづらいなというのがあるが、それは子どもが図書館に行くと騒いで周りの目が気になったり、本などを壊すのではないかという心配がある。まちなか絵本館だとゆったりとした雰囲気があり、騒いでも気にしないで本を読んでもらえる。普通の図書館だと難しい感じがあって、もし可能であれば、1階と2階に分かれていれば、1階だとうるさくしても大丈夫みたいな風に試験的にしてもらえると親としてはありがたいと思う。

○今の話と内容が似たようなものになるが、ご意見ポストの中にもあるように「子ども連れが、子どもの動きなどを気にせず利用できるようにできないか」

というアンケートに対して、大きな改修などができないという回答があったが、たとえば、1週間に半日だけ、支援センター的なもので図書館を開放するかそういった形で実施すると、図書館側としても大きな改修費用がかからないので、試験的にそういった形でしていただくと子どもが本と関われる機会が増えるのではないかと思う。

●今の御意見は、平成28年度長岡市立図書館の運営方針の重点事項6番の「利便性の向上を図り、快適な環境づくりに努める。」の裏側にそういった事があるという認識で事務局は考えてほしい。

⇒重点事項4番に「本と人をつなぐ」というものがあり、今、読み聞かせという講座をやっているが、たとえば図書館で赤ちゃんマッサージの講座など、本につながるけれども直接本に関係ないような講座もやって利用しやすくするという部分では、充分可能性があると思う。まず来ていただく第1歩は、そういう形でやって、その後6番の利便性の向上でどうフォローするかということもあるので、来年度に向けて検討させてもらいたい。